

## 数量根拠(1/3)

※色付数値を採用する

### 平田浄水場

#### 1 汚泥移送数量【天日乾燥床→ストックヤード】

過去5年間の年別汚泥移送量は以下の通りである。

汚泥移送量(m<sup>3</sup>)

R02年度	878
R03年度	1,060
R04年度	1,138
R05年度	929
R06年度	1,431
合計	5,436
平均	1,087
5年平均の	<b>1,087m<sup>3</sup></b>

#### 2 敷き砂補充数量および均し数量

過去5ヶ年の敷き均しを行った天日乾燥床の数量は

R02年度	10床
R03年度	10床
R04年度	13床
R05年度	13床
R06年度	17床
合計	63床
平均	13床

天日乾燥床の汚泥掘削に伴い、発生する1床あたりの敷き砂採掘量は

床盤面積256.29m<sup>2</sup> × 掘削深 0.03m = 7.7m<sup>3</sup>

7.7m<sup>3</sup> × 13床 = **100m<sup>3</sup>**

#### 3 汚泥積込数量【ストックヤードから処分】

①ストックヤードへ搬出された天日乾燥床の泥を処分する。

過去5年間の年別汚泥処分量は以下の通りである。

汚泥処分量(m<sup>3</sup>)

R02年度	716
R03年度	329
R04年度	706
R05年度	633
R06年度	688
合計	3,072
平均	614

②汚泥積込数量・汚泥処理数量

**614m<sup>3</sup>**

#### 4 汚泥集積【ストックヤード内集積】

過去5年のホイルローダ稼働時間の平均を採用する。

R02年度	13.00
R03年度	6.00
R04年度	17.00
R05年度	11.00
R06年度	13.00
平均	12

稼働時間 **12h**

#### 5 乾燥促進作業等

	BH(0.45m <sup>3</sup> ) [日]	ホイルローダ [h]	作業員 [人]
R1年度	5.9	-	4.0
R2年度	4.9	6.0	-
R3年度	8.4	21.2	6.0
R4年度	4.1	3.0	5.8
R5年度	6.0	11.0	6.0
R6年度	-	-	-
平均	5.8	10.3	5.5

※大雨による大量の汚泥で二次乾燥床がひっ迫し、乾燥促進作業を実施できなかったため平均より除外する

過去の実績を参考として、

BHクローラ型 排ガス対策型 山積0.45m<sup>3</sup>

ホイルローダー(1.9~2.1m<sup>3</sup>)

普通作業員

**6 日**  
**11 h**  
**6 人**

## 数量根拠(2/3)

### 遊槽部浄水場

#### 1 汚泥移送数量【天日乾燥床→二次乾燥床】

過去5年間の年別汚泥移送量は以下の通りである。

汚泥移送量(m<sup>3</sup>)

R02年度	1,317
R03年度	1,298
R04年度	1,595
R05年度	1,215
R06年度	1,442
合計	6,867
平均	1,373

**1,373m<sup>3</sup>**

上記の見込み量 **1,373m<sup>3</sup>**

#### 2 汚泥積込数量【二次乾燥床→処分】

##### ①ストックヤードへ搬出される天日乾燥床の泥を処分する。

過去5年間の年別汚泥処分量は以下の通りである。

汚泥処分量(m<sup>3</sup>)

R02年度	577
R03年度	1,116
R04年度	1,157
R05年度	627
R06年度	913
合計	4,390
平均	878

**878m<sup>3</sup>**

##### ②汚泥積込数量・汚泥処理数量

**878m<sup>3</sup>**

#### 3 敷き砂補充及び均し数量

天日乾燥床の汚泥掘削に伴い、発生する敷き砂採掘量は

No.1天日乾燥床	床盤面積93m <sup>2</sup> × 掘削深	0.05m =	4.7m <sup>3</sup>
No.2天日乾燥床	床盤面積93m <sup>2</sup> × 掘削深	0.05m =	4.7m <sup>3</sup>
No.3天日乾燥床	床盤面積93m <sup>2</sup> × 掘削深	0.05m =	4.7m <sup>3</sup>
No.4天日乾燥床	床盤面積64.8m <sup>2</sup> × 掘削深	0.05m =	3.2m <sup>3</sup>

合計 17.3m<sup>3</sup> 1回あたり平均 4.3m<sup>3</sup>

年間8回ほど汚泥を移送するものとした場合 4.3m<sup>3</sup> × 8 = 34.4m<sup>3</sup> ≒ **34m<sup>3</sup>**

予定数量 **34m<sup>3</sup>**

#### 4 敷き鉄板数量

15枚 × 8回 = **120枚** (面積1524mm × 6096mm × 120枚 = 1115m<sup>2</sup>)

1床分搬出した場合のおおよその作業日数 **7日**

#### 5 汚泥集積【二次乾燥床内集積】

過去の実績より、1度の集積に平均 6h 程度を要しており、年間 8 回ほど汚泥を集積することを見込むと

6h × 8回 = **48h**

稼働時間 **48h**

#### 6 乾燥促進作業等

	BH(0.45m <sup>3</sup> ) [日]	ホイールローダ [時間]	作業員 [人]
R2年度	8.1	3.0	3.0
R3年度	7.0	4.7	2.3
R4年度	5.6	4.0	30.7
R5年度	7.0	4.0	11.0
R6年度	2.0	6.0	2.0
平均	6.0	4.3	9.8

過去の実績を参考として、

BHクローラ型 排ガス対策型 山積0.45m<sup>3</sup>

**6日**

ホイールローダー(1.9~2.1m<sup>3</sup>)

**5h**

普通作業員

**10人**

## 数量根拠(3/3)

### 松陵配水池

#### 1 搬出予定汚泥数量

過去5年間の年別汚泥移送量は以下の通りである。

汚泥数量(m<sup>3</sup>)

R02年度	13
R03年度	処分無し
R04年度	7
R05年度	31
R06年度	5
合計	56
平均	11

※2カ年分処分

11m<sup>3</sup>

#### 2 敷き砂補充及び均し数量

$$\text{天日乾燥床 (22.5m} \times \text{9.5m)} \times \text{掘削深0.03m} = 6.4125\text{m}^3 \approx \mathbf{7\text{m}^3}$$

### 東泉ポンプ場

#### 1 搬出予定汚泥数量

過去5年間の年別汚泥移送量は以下の通りである。

汚泥数量(m<sup>3</sup>)

R02年度	7
R03年度	処分無し
R04年度	3
R05年度	処分無し
R06年度	4
合計	14
平均	3

3m<sup>3</sup>

#### 2 敷き砂補充及び均し数量

$$\text{天日乾燥床 (17.0m} \times \text{7.5m)} \times \text{掘削深0.03m} = 3.825\text{m}^3 \approx \mathbf{4\text{m}^3}$$

### 松陵配水池および東泉ポンプ場 合計

1 搬出予定汚泥数量 **14m<sup>3</sup>**

2 敷き砂補充及び均し数量 **11m<sup>3</sup>**